



よくわかる校内研

令和7年度 研究主題

考動力を発揮し、学びを愉しむ児童の育成

—主体的・対話的で深い学びにつながるICTの活用—

はじめに

本校では、学校教育目標「自分をみがこう！ともにのびよう！塩井の子ども」の具現化のため、「学びを愉しむ」児童を育成することを研究の目標に据え、全校体制で授業改善に取り組んでまいりました。特に今年度は、文部科学省リーディングDXスクールの認定を受け、デジタルとリアルを融合させ、児童が自ら問いを持ち、対話を通して新たな価値を見出す”学びの変容”を目指し、ICTを効果的に活用した授業デザインに注力してきました。

この一年、本校教職員は飽くなき探究心を持って研究に取り組んできました。校内研チャット”T-Lab”を活用した日常的な知見の共有、放課後の教材研究、そして何より児童一人一人の姿を丁寧に”見取る”姿勢には、目を見張るものがありました。教え込みの授業から、児童に学びを委ね、自走を支える伴走者としての役割へと、私たち自身の「授業観・学習観」も着実に転換されています。その結果、児童が自らの学び方を自己決定・自己調整し、粘り強く課題に挑戦する姿が、学校のあちこちで見られるようになりました。

今後も塩井小学校が、児童も教師も共に「学びを愉しむ」学校であり続けるために、これからも歩みを止めることなく、一人一人のウェルビーイングの実現に向けて挑戦し続けてまいります。

令和8年3月 学校長 落合 篤



米沢市立塩井小学校

〒992-0042 米沢市塩井町塩野3760番地
TEL(0238)23-1558 FAX(0238)22-8116
e-mail sioi@educ.yonezawa.yamagata.jp

第7次山形教育
振興基本計画

子供の実態
学校の願い

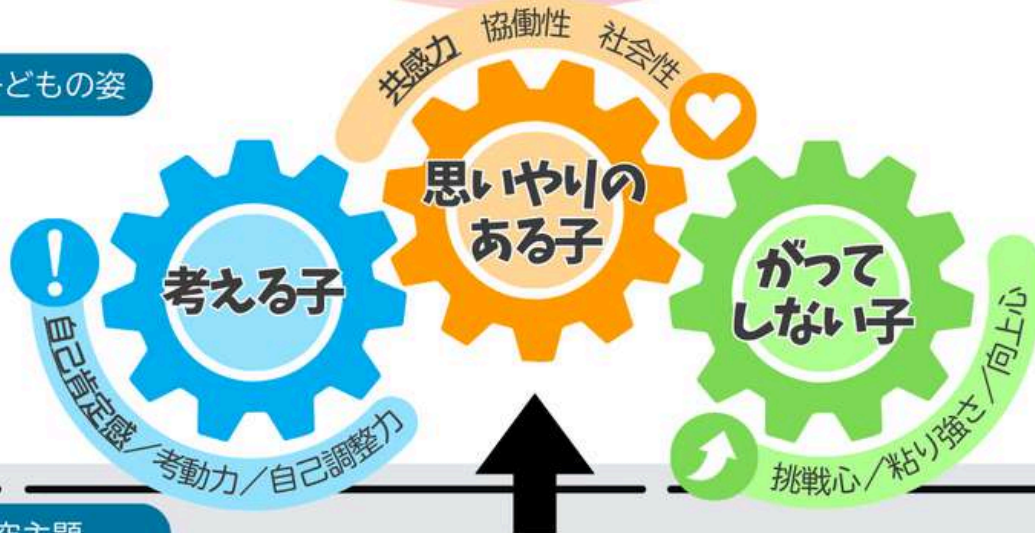
学校教育目標

自分をみがこう！！
自分にものびよう！！
と
塩井の子ども

米沢市教育
振興基本計画

地域
保護者の願い

めざす子どもの姿



研究主題

考動力を発揮し、学びを愉しむ児童の育成
—主体的・対話的で深い学びにつなげるICTの活用—

自分が問いをもち、見通しを立てて行動する子

自分たちが対話により学びを共有し、新たな価値や解決策を見出し、表現する子

自分の学びを振り返り、粘り強く学びに向かう子

重点・方法

授業づくり
振り返りの充実
ICTの効果的な活用



一人一人の子供を
主語にした授業研究

教科マイスター
制度の活用

教師が日常的に学び続ける校内研

校外研修の推奨
校内への還元

校内研修Chat
T-Lab

Teacher・Teaching・Try
Team・Talk・Thinking
Transform・Technicalなど
今の教師に求められるTを
全職員で共有する場

基礎基本の力の育成・安心安全な学級経営



下学年の授業実践から

1年算数

「かたちづくり」



◎実体験を重視した「環境構成」と「ICTの活用」

・事前に大量の箱を集めたことで、図形の特徴を触覚と視覚の両面から捉えることができた。また、子どもの反応を予想してFigJamシートを何度も作り替えるなど、1年生にも効果的な活用がなされた。

◎思考を深め、言語化を促す「教師の働きかけ」

・考えを具体的に言語化させる個別の机間指導や、子どもの曖昧な言葉を鋭く拾って言語化を助ける指導が学びの質を高めた。また、色や大きさではなく、図形の特性に着目させる発問により、算数的な見方・考え方が引き出された。

◎学び合いを支える「学級経営の基盤」

・ピア・サポート（教え合い）が日常化していた。言葉に詰まった友だちに対し、周りの子がヒントを出すなど、互いに支え合う温かい雰囲気醸成されていた。

「すなおな心で『お月さまとコロ』」

2年道徳

◎「心情メーター」による心の可視化（デジタル教材の活用）

- ・言語化が難しい「2つの心（正直さと弱さ）」が戦う状態を、メーターを動かすことで視覚的に捉えやすくしていた。
- ・謝る前と後の変化を比較することで、なぜ気持ちが変わったのかを説明する強力な手がかりとなり有効であった。
- ・「同じ位置でも理由が違う」「微妙に位置が違う」ことから、一人ひとりの感じ方の違いに触れるツールとして有効だった。

◎思考を止めない教師のサポートの工夫

- ・補助発問のタイミング：思考が止まった時に「後悔ってどんなこと？」とスツと助け舟を出すなど、子供の思考を見取り、サポートしていた。
- ・子供の言葉足らずな意見を丁寧に言語化し補うことで、子供が自分の言葉で話し続けることができていた。



3年国語

「生活の中で読もう ポスターを読もう」



◎ICTによる「学びの構造化」と「他者参照」

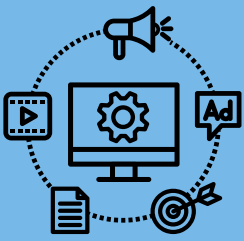
- ・FigJamを「個人のノート」兼「共有の板書」として活用。単元の流れを一目で把握でき、思考を蓄積・共有する時間を大幅に短縮できた。
- ・友達の考えを見ることは「目的」ではなく、自分が必要な時に行う「手段」であることを確認し、自分の学びを深めるために行っていた。

◎「複線型の学び」と自己決定の尊重と振り返り

- ・児童が自分のめあてに合わせて「どう学ぶか」を選べる環境を構築。個の尊重が、学習主体としての自覚に繋がっていた。
- ・振り返りの時間を十分に確保し、教師、そして児童同士で価値付けることで、児童が自分の「学び方」をメタ認知し、次への意欲を高めた。

●デジタルとリアル「見取り」

- ・ICT活用で生まれた時間で、教室全体を俯瞰することも重要。画面上の情報だけでなく、子供の表情、様子、立ち位置から「真の支援ニーズ」を判断することの大切さを共有した。



上学年の授業実践から

4年社会

「風水害からくらしを守る」



◎「自分事」にする単元デザインと学級経営

- ・家族へのインタビューを通じ、自分の家の備えを調べることで、学習への必要感と意欲（たのしみ）を引き出していた。
- ・教師と児童の信頼関係が厚く、教師の鋭い問いかけに児童たちが必死に考え、応えようとする姿があった。

◎洗練されたICT環境（FigJam等の活用）

- ・視覚的に分かりやすいシート設計、ルーブリックの提示など、子供が目標を持って取り組める工夫が効果的だった。
- ・タイピングスキルの高さが、思考の言語化と共有のスピードアップに直結していた。

●「待つ」と「委ねる」の意識化

- ・意図的な「無言の時間」を確保して子供の思考を待つことや、学習の進め方や解決方法を自己決定する場面を増やす必要性を確認した。

「走って、つないで、みんなでゴール！ハンドボール」

5年体育

◎子供がルールを統治する「自律したゲーム運営」

- ・自分たちでルールを決め、修正を繰り返すことで、審判がいなくても成立するクリーンなゲームを実現していた。攻守の役割分担など、「全員が参加し、楽しめるように」という児童主体の意欲が感じられた。

◎思考と改善を支える「ICT・環境設定」の工夫

- ・動画撮影やホワイトボードを活用し、自分たちの動きを客観的に捉えて作戦（立案・実行・検証）に繋げていた。FigJamに過去の学習の足跡やルール、参考動画が集約されており、家庭での予習や他学年の参考にまで広がる「生きた資料」となっていた。また、前向き言葉の掲示が技能だけでなく、互いを認め合う安心感につながった。

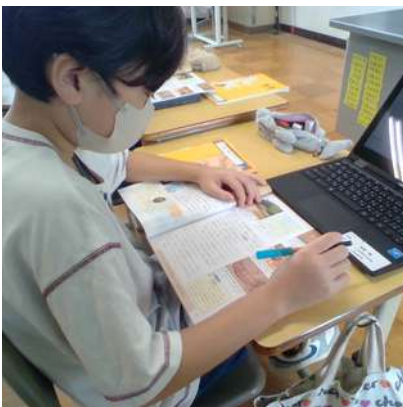
●運動量と思考時間のバランスと個人の視点の明確化

- ・めあてを具体化し、短時間で質の高い作戦タイムを実施することで、動の時間を確保することや他種目の経験を活かし、個の目標達成に向けた視点を明確にすることの重要性を共有した。



6年社会

「武士の世の中へ」



◎学習者が自分で選ぶ「個別最適な学び」の姿

- ・教科書に線を引きながら進める子、動画でまず全体像を掴む子など、自分が納得する順序・方法で「自走」していた。また、用語を提示することで、核心となる学びに迫る工夫があった。
- ・明確な授業の流れが視覚化されており、教師の指示を待たずに学習を進めることができていた。

◎子供を惹きつける「教師の専門性」

- ・子供を世界観に引き込み、集中を切らさない演技力・語りによる導入と展開、そして、授業中の声掛けから、日頃から一人一人の状況を細かく観察している「児童理解」の深さが感じられた。

●「調べる」と「交流する」の時間配分と目的の共有

- ・深い学びを実現するために、個人追求と対話の時間をどう確保し、対話の必要感をもたせるかが学校全体の課題であることを共有した。



講演会

学びを愉しむ子供を育成する授業とは ～主体的・対話的で深い学びにつなげるICTの活用～

子どもが主体的に学ぶ
授業構成って…

振り返りを
充実させるためには!?

ICTを効果的に活用
するためのポイントは?

～「学びを愉しむ子供」を育成する授業の転換を目指して～

1. 授業観・学習観の「転換」

- ・ 教師の制御を減らし、子供が「自分で決めた」と実感できる学びの場をデザインする。
- ・ 手厚い指示を段階的に減らし、最終的に教師なしで学びをコントロールできる姿を目指す。
- ・ 学びを委ねるからこそ、教材研究と児童理解を深め、目的意識を自覚させる働きかけを大切にする。

2. 具体的指標：6つのスケールと自己決定

- ・ 課題・過程・形態・ツール・場所・ペースのいずれかを子供に選ばせ、モチベーションと幸福感を高める。

3. ICTによる「深い意味理解」とスキル向上

- ・ 比較・共有・再構成を意識しICTを使う。
- ・ トラブルや失敗も学びの一部。どんどん使わせ、修正方法を習得させることで汎用的なスキルを育てる。
- ・ 目的を明確にしたICTの活用を模索する。

4. 振り返りの質の向上

- ・ 相手に説明する教授的説明や、次に活かす教訓を引き出す。
- ・ その場でのフィードバックを徹底することで、子供の「今知りたい」に応える。

5. 学びを支える土台（共通基盤）

- ・ 児童との信頼関係があるからこそ「委ねる」ことができる。
- ・ 視力・姿勢・情報リテラシーへの配慮を養護教諭等とも連携し、スタンダードとして定着させる。



参加して下さった先生方からの感想



- ・ 児童の発達段階に応じた情報活用能力の育成に向けて、全校で取り組むことの必要性について改めて考えるきっかけになりました。また、そのために主体的で対話的で深い学びを実現するための日々の授業改善の必要性も感じています。ICTの適切な活用のために、子どもたち自身が学習者となり、学び方を学ぶことも大切だと再認識しました。
- ・ 新学習指導要領とICTの結びつき、どのフェーズにいるのか常に意識しながらの授業づくり、学級づくり、学校づくりをしていくことが大切だと分かりました。子どもも大人も同じ共有シートを使い、目的意識を持ってICTを日常的に活用できるよう頑張ります。ICTのことだけでなく、振り返りの重要性や考えのまとめ方のポイントも、なるほどと思えた部分です。



米沢市立

塩井小学校

公開校内研修会

講演会

「GIGA×深い学び」 の実現を目指して

1. 「深い学び」への転換：わかったつもりで終わらせない

- ・メタ認知の促進：できたことをスライドにまとめたり、体験を動画に記録したりすることで、自分の学びを客観的に振り返る。
- ・記録の質を高める：写真を撮る際もどの角度で、どの範囲を撮るかを考えさせる。
- ・失敗の価値：失敗の記録を次に活かす記録性と、それを評価につなげる姿勢が重要。

2. ICTを活用した「共有」と「試行」：対話と共有の場へ

- ・デジタル展示：FigJamなどのツールを使い、全員の考えをリアルタイムで共有・比較する。
- ・表現の選択：ノート、プリント、スライドなど、自分が分かったことを表現する手段を子ども自身が選択する。
- ・なぜそれを選んだか：手段を選ばせた後の教師の問いかけが学びの理由や特徴を明確にする。

3. 子どもの「自己決定」と「自立」を支える環境

- ・教師がすべてを指示するのではなく、子どもが自分で判断できる仕掛けを作る。

4. 教科書を「羅針盤」とした教師の役割：教育の本質や教科書の重要性

- ・教科書の再定義：教科書を羅針盤として捉え、そこに書かれた言葉の意味を深く掘り下げる。
- ・教師の問いかけ：「どうしてその発問なのか」「その活動で学びが深まるのか」を常に自問し、子どもの良さを見つけて把握することに注力する。
- ・クラウドと対面の共存：デジタルでの効率化と、対面での深い対話を適切に組み合わせる。

5. 学びを駆動する「基礎基本」の徹底：学びを支える基礎基本と学習スキル

- ・土台の可視化：読書、漢字、計算、宿題といった基礎を疎かにせず、クラス全体で状況を「見える化」する。
- ・構造化スキル：ノートを構造的にまとめる技術など、学びを支える型を身につけさせる。
- ・掲示物の活用：先生がいなくても「次は何をすべきか」「誰と学ぶか」が見通せるような掲示工夫を行う。



参加してくださった先生方からの感想

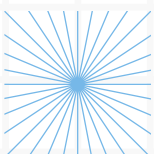
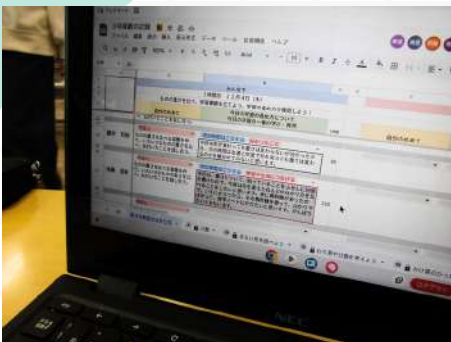
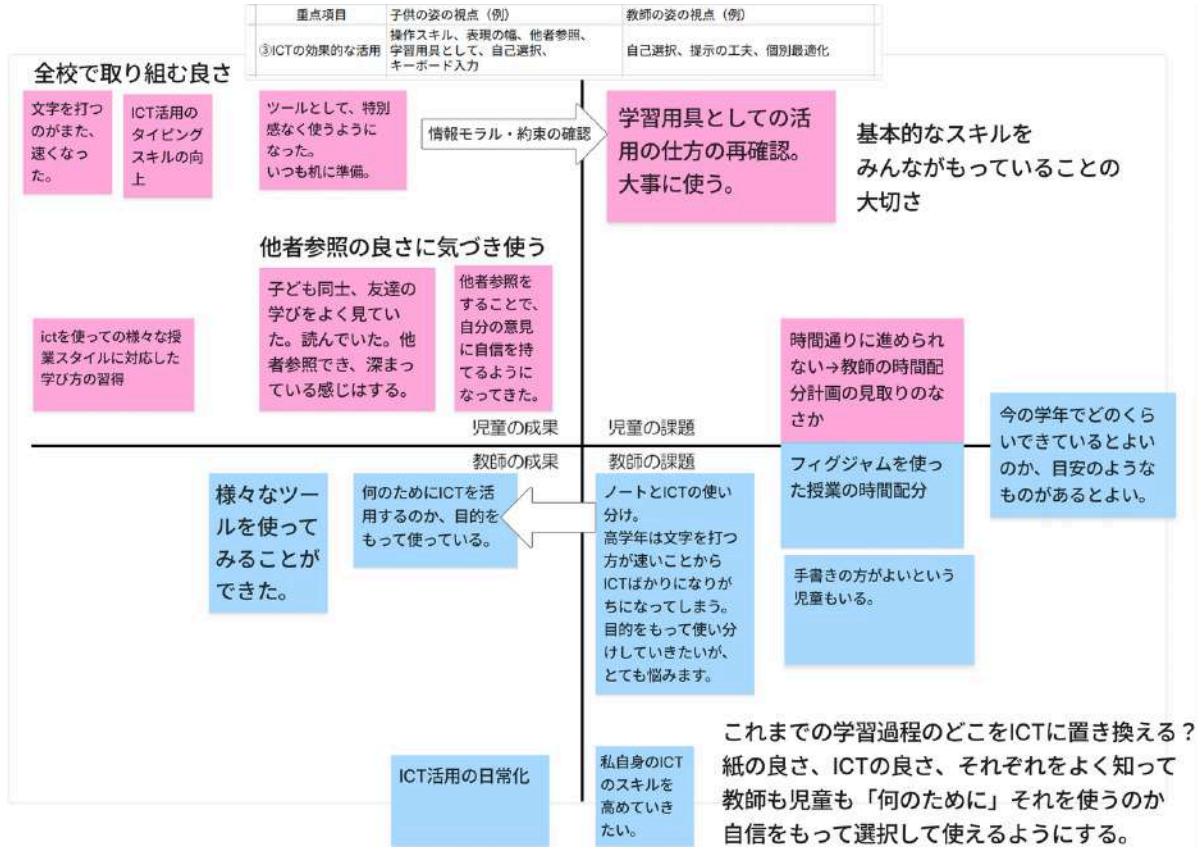


- ・GIGAを活用していくことで、できることを再認識できました。考えや成果物の共有ができること、記録に残ることで後から体験を振り返ることができること、教師側としては評価がしやすいことなどたくさんのメリットを確認できました。また、深い学びを実現するために、GIGAを活用するだけでなく、教材研究や教師の発問がさらに重要になってくると分かりました。
- ・ICTが個々の思考を可視化し、瞬時に共有・比較できる強みは、対話を深めるための「土俵」を整えるのだと確信しました。教師が教え込みすぎのを手放し、子供の探究に伴走するファシリテーターへの転換ができればと思いました。今後は、操作の習得以上に、子供が自ら問いを立て、対話を楽しむ時間を大切にしていきたいと感じました。

今年度の成果と課題



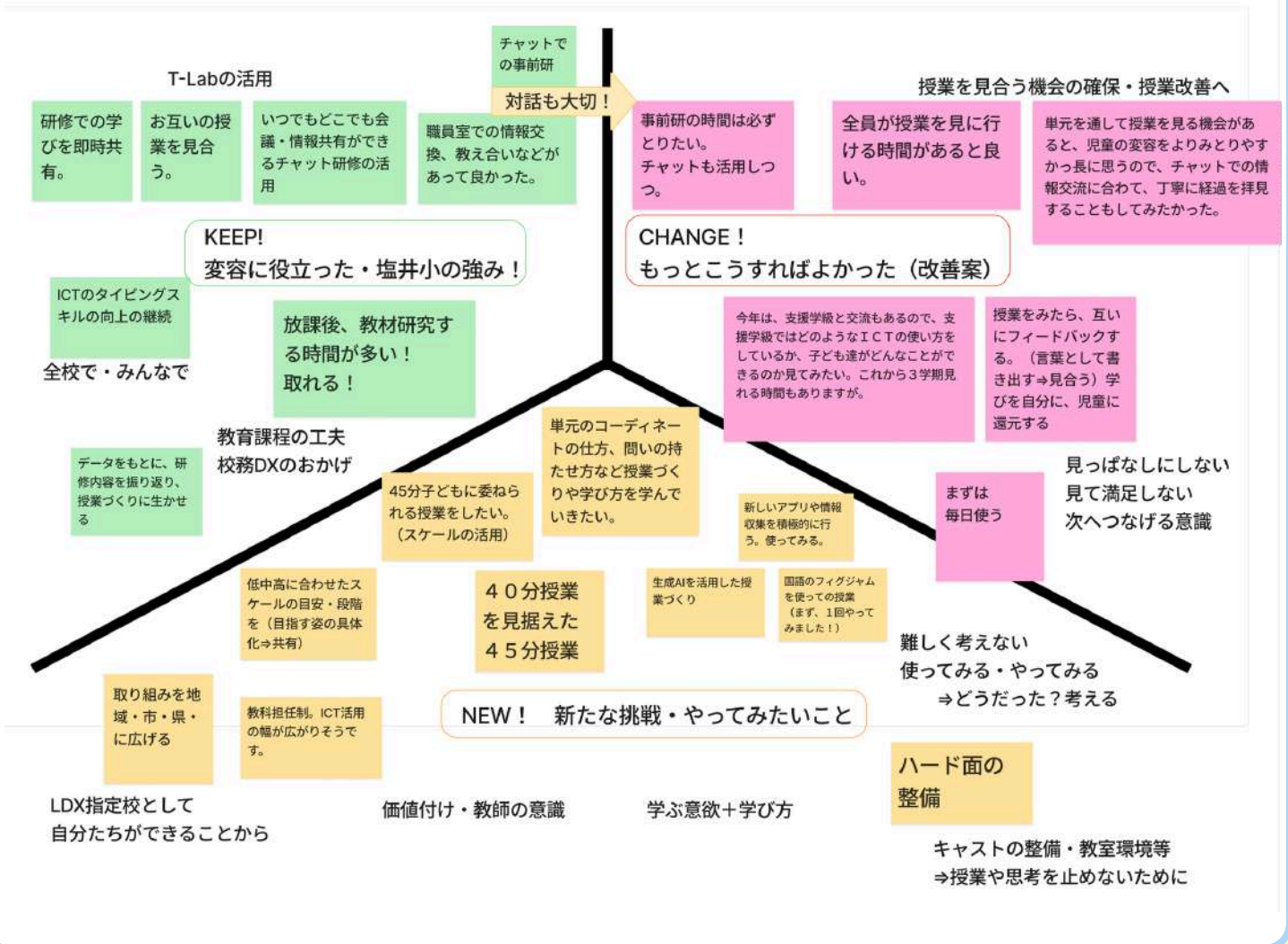
重点3) ICTの効果的な活用について



次年度へ向けて



R8年度も児童も教師も学び続ける・学びを愉しむ



研究同人

R7年度 米沢市立塩井小学校

Special Thanks!

- ◎ 東京学芸大学 教授 堀田 龍也 様
- ◎ 山梨大学 准教授 三井 一希 様
- ◎ 置賜教育事務所、米沢市教育委員会の皆様
- ◎ 授業研究会・公開校内研修会に参加いただいた多くの先生方
- ◎ 塩井小学校の子ども達